

## 第3回流山市子ども・子育て会議 会議録

### 日時

平成25年12月16日（月）午後3時～午後5時

### 場所

流山市役所 第2庁舎3階306会議室

### 出席委員

柏女会長、田中副会長、水落委員、古宿委員、岡本委員、櫻庭委員、小川委員、竹内委員、鈴木委員、相馬委員、仲宗根委員、藪本委員、吉川委員

### 欠席委員

なし

### 事務局

子ども家庭部 宮島部長、矢野次長

子ども家庭課子ども政策室 熊井室長、中山主事、橋爪主事

### 関係課

保育課 仲田課長

学校教育課 小林係長

マーケティング課 河尻報道官

### 傍聴者

5人

### 報告

ワークショップの結果について

### 議題

ニーズ調査について

- ・ヒアリング調査の項目について
- ・ヒアリング調査の対象施設について

### 事務局案の提出

流山市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）

資料

第3回流山市子ども・子育て会議配布資料一覧

資料 1 第3回流山市子ども・子育て会議次第

資料 2 ワークショップ意見一覧（グループ別）

資料 3 ワークショップ意見一覧（項目別）

資料 4 ワークショップアンケート集計結果

資料 5 ヒアリング調査実施要領（案）

資料 6 流山市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査 ～ヒアリング調査用～

資料 7 流山市子ども・子育て支援事業計画（骨子案のイメージ）

議事録（概要）

（事務局）

定刻となりましたので、只今から、第3回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

本日の会議につきましては、委員13名中13名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

本日の会議は、先日お配りしました資料1「第3回流山市子ども・子育て会議次第」に基づきまして進めさせていただきます。

まず、お配りしました資料の確認をさせていただきますと思います。

《資料の説明》

以上ですが、何か不足しているものはございませんでしょうか。

それでは、ここからは柏女会長に議事進行をお願いします。

（柏女会長）

年末のお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。部会の皆様方にはアンケート調査票の作成について、内容の濃い議論をしていただき心より感謝を申し上げます。ワークショップについても4地区で実施することができました。この間皆様方にご協力いただきましたことを心より感謝を申し上げます。

国の議論も大詰めになっていて、地方でも議論が進んでいます。流山市は進捗状況としては全国標準ですが、ワークショップを行ったり、ニーズ調査についても独自の調査を行ったりは大きな特徴かと思っています。これからも国の動向は見ながらも、流山市独自の計画を皆様の議論の中で作っていければと思っていますので、ご協力をお願いいたします。

今日は、報告と審議ということになりますが、審議の中でニーズ調査については今日決めたいと思っていますのでご協力をお願いします。それではまず事務局から報告事項についてお願いします。

(事務局)

《報告》

- ・アンケート調査の回収状況について
- ・ワークショップの結果について

(柏女会長)

ありがとうございました。今、アンケート調査の回収状況とワークショップの結果について報告をいただきました。これに関連して何かご質問はありますか。

よろしいでしょうか。ワークショップの結果については計画自体にも資料として検討していくということです。回収率も60%を超えて、まずは良かったと思っています。ありがとうございました。

それでは続いて審議に移っていきたいと思います。ニーズ調査の中のヒアリング調査についての議論ということになると思います。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

《ニーズ調査について説明》

- ・ヒアリング調査の調査項目について
- ・ヒアリング調査の調査対象施設について

(柏女会長)

ありがとうございました。ヒアリング調査については国の方では求めている、本市独自の調査ということになるかと思います。こうしたヒアリング調査が行われるということは大切なことかと思いますので進めていければと思います。まずはご質問を伺いましょうか。

(吉川委員)

調査員というのは具体的にどういう方が伺うのでしょうか。

(事務局)

今回ニーズ調査をアシスト株式会社に委託しまして、こちらの社員が2名調

査員として施設の方へ伺う予定です。

(柏女会長)

いいですか。他はどうでしょう。

(鈴木委員)

ヒアリングする例の中に保育所とあり、保育園はないのですが、同じと捉えてよろしいのでしょうか。

(事務局)

その通りです。

(柏女会長)

他はどうですか。

私から一点ですが、ヒアリングの結果については子ども・子育て会議に報告して議事録と合わせて市のホームページ上に公開しますということになっているのですが、5人ということと、施設は公表するのでしょうか。施設が特定されて、個別、具体的な考えられたことが公表されることについては、何かお考えはありますでしょうか。

(事務局)

例えば、障害施設1か所、保育所何か所というような記載に留めることも必要あるかと考えています。

(柏女会長)

発言された内容は公表していくということになるのでしょうか。

(事務局)

いま考えているのはそうです。

(柏女会長)

わかりました。それでは少し他の議論をしたうえで詰めていきましょう。

(藪本委員)

ヒアリングをするのは平日の昼間になりますか。ワークショップでも指摘があったのですが、平日の昼間だと男性の意見が吸い上げづらいのではないかと

思うので、女性に偏るところを是正する方法を検討したほうが良いのではないかと思います。

(柏女会長)

今のところは平日ですか。

(事務局)

業者と打ち合わせをした段階では、時間帯は午前10時ぐらいから午後7時ぐらいということになっているのですが、男性・女性ということについては抜けていましたので、これから皆さんに決めていただく施設によっては土曜日、日曜日に行事等もあるかと思しますので、調整をさせていただいて可能であれば実施していきたいと思えます。

(柏女会長)

ここで決めれば、施設側のご協力があれば可能ということですね。分りました。他はどうでしょう。

(水落委員)

児童発達支援センターということで、例の全てに入っていて意見を聞いていただけることがありがたいのですが、母子分離で通園していて、保護者が来る機会が限られているので、事前に確認していただけると助かると思えます。

(事務局)

確認して調整します。ありがとうございます。

(柏女会長)

他はどうでしょうか。

(藪本委員)

留意したほうがいいかと思うのは北部・東部・南部・中部のエリアですね。ワークショップの時に集まりの偏りがあることから、ヒアリングで補完するという目的があるのならば、集まっていないところを少し厚めにヒアリングする等の配慮が必要ではないかと思えます。

(柏女会長)

分りました。ありがとうございます。

その他は、なければ決めていきたいと思いますが、まず何を聞くかを少し詰めてから、それによって対象施設を決めていった方がいいかと思うのですがそれでよろしいですか。

それでは資料6ですね。これは事務局の原案ということなので、5問程度であれば変えていくことも可能だろうということだと思いますけど、内容についていかがでしょうか。何かご意見ございますか。

私から、考えていただく間のつなぎということで、問1ですが「子育てをするうえで今までに困ったことはありますか」これは困ったことで、二つ目は「どのようなサポートがあればよい」ですので将来的な希望ですよね。

これは意図としては、困ったことがあったのか、その時にはどんなサポートがあればよかったと今なら思えるかということですよ。

(仲宗根委員)

本題からずれるかもしれないのですが、この質問から調査員の方がどれだけ引き出してくれるかというか、調査員の方がどれだけ子育てについて知っていて、流山市の状況について知っていて、母親の気持ちに寄り添える人かどうかによって、この質問でもちゃんとヒアリングができるのか、それとも本当に具体的に出していかないと調査員の人たちは話を引き出すことができないのかによって質問の内容が変わってくると思いますので、そのあたりをお伺いしたいと思います。

(事務局)

アシスト株式会社は前回の次世代育成支援行動計画を作った時の業者になりますので、子育てについて、市の事業等は周知をしていると考えています。現状については調査員に説明をしたうえで調査に行くというような方向で考えていきたいと思っています。

(柏女会長)

アシストの調査員の方は今回のワークショップに参加はしているのですか。

(事務局)

今回のワークショップには参加しておりません。ただ経験値として聞き取り調査等は行っておりますので、聞くポイント等については心得ているのかと、あとは私どもからもアドバイスをしたり、本日皆様から頂いたご意見をお伝えできればと思います。

(柏女会長)

ワークショップの時のやり方はスムーズに流れていた気がしていて、そうすると問3がそれに当たりますよね。そこから入ったほうがいいかと思います。

(藪本委員)

流れはそれでいいと思うのですが、その後に問1, 2, 4とやっていったときに、回答がダブるのではないかと思います。せっかく現地でヒアグをするので、その施設ならではのことを聞けるようにした方がいいと思います。問4は問1, 2で網羅されてしまうのではないかと思います。個別施設について、を問2にして、どこを聞きたいかを決めたいうえで質問を分けてはどうかと思います。

(柏女会長)

ワークショップで聞いたような、一般的に流山の子育てで、どこが大変で、どこが良いというような関係の質問と、今利用している施設についてどう感じているのか、何が必要なのかというような二本立てで良いのではないかという意見ですね。

一般論で流山の子育てこう思うということのと、今使っている幼稚園についてどう思うか、個別の幼稚園についてもあるでしょうし、幼稚園全体についてどう思うかということ聞いていった方が改善点とかが見つかるかなということだと思いますが。

(岡本委員)

これはそういう質問なのですよね。

(柏女会長)

これは今1問だけなので、それをもう少し膨らませていったらどうかということだと思いますが、そういう方向でよろしいでしょうか。

(田中副会長)

もう少し質問を増やすということですか。

(柏女会長)

最初は問3から入って行って、次に今ご利用している施設についてのご意見、良いところ、改善してほしいところ、そしてその年齢の方々が利用されますので、幼稚園だと3~5歳が中心なので、その方々に幼児期の教育などについて

のご意見で、流山でももう少しこうだったらいいと思うことはありますかみたいなことで問2のところでは2問ぐらい入れて、最後に問4で流山市の教育保育環境の充実など、子育て環境や支援についてのご意見ということで、大きく4つか5つぐらい、広めのところから入って、狭めのところについて、最後にまた広めのところについて終わるというようなのはどうかと思います。

(岡本委員)

調査というか、市民の方から意見を聞くというのは、アンケートとワークショップ、それと今回の3つになるわけですね。その3つを統計的にまとめたものを市の方では精査して何らかの方策に役立てるという考えなのではなかね。そうすると、例えばワークショップで、10点満点でやったのであれば、これも10点満点にするというふうに統一性を持たせた方が分かりやすいということと、ワークショップとニーズ調査は別に出してもらいたいと思います。一緒にしてしまうと分かりづらくなって、先ほどの地域の偏りとか施設の偏りが分からなくなってしまいますので、別に出してもらったものを会議で議論していった方がより公正な幅広い意見が取り上げられるのではないかと思います。

(柏女会長)

ありがとうございます。  
いかがでしょうか。

(小川委員)

個人情報にかかってくると思うのですが、学童の場合は地域を限定されているからいいのですけれど、例えば児童館とか、ファミサポとか地域を特定していないものってあると思うのですね。個人情報にあたることは聞かないで行うのか、ある程度個人情報のなものを含またうえで聞くのかによっても内容的に違ってくるかと思うのですが、個人情報なしで項目だけで聞いていくのでしょうか。

(事務局)

最初は年齢や性別も考えていたのですが、色々なものを入れていくと質問数が増えてしましまして、保護者の方が短時間で、なおかつ調査員が聞き取りやすいということで、個人情報を除いた部分で考えています。

(田中副会長)

この施設からこういう意見が出たというのは、市の方で把握はするのですよ

ね。それを公表するのは別ですけど。

(柏女会長)

対象の選定方法にも関わってくる話だと思いますけれど。

内容的には2つのジャンル、1つはワークショップでやったような幅広く流山の子育てをどう思うか、良い点と改善してほしい点、これが1つですね。次に自分が現在利用しているヒアリングに行った施設についてのご意見や、当該施設だけでなく、例えば幼稚園であれば幼児期の教育についてご意見はありますかとか、保育所であれば就学前の保育についての意見とか、そういうようなことが個別・具体的な論が入って、最後に流山子ども・子育てについての改善点、ご要望というような流れでよろしいでしょうか。

ではそのような方針にさせていただいて、質問を精査していただくような形でお願いしたいと思います。だいたいそういうふうに合意をしていただいて、次に資料5に戻っていただきまして、実施機関、調査対象、箇所数ですね。ここについて少しご意見を頂戴したいと思います。

もう一点、先ほど少し出た5名程度の方の選定方法はどのようにするのでしょうか。

(事務局)

5名ということで業者と話をしています、実際に施設が決まりましたら、どういう時に聞き取りできるかを調整させていただきたいと思っています。5名で1時間ぐらいと今は考えています。

(柏女会長)

選定の方法は、例えば施設長さんが選んだ5名の方とか、そういう形だとバイアスがかかったりするのではないかと思うのですが。

(事務局)

今考えているのは、例えば保育所とか幼稚園といった場合、行事の終わった後に、あらかじめ5名の方をお願いをしたいというような趣旨で園長先生をお願いをさせていただく必要は出てくるかと思っています。ただ、この人とこの人というような形は考えていません。あとは、例えば保健センターは健診が終わった後に出口の方で説明をさせていただいて実施するというような方法も考えなければいけないかと思っています。

(岡本委員)

幼稚園の場合は、行事があると聞き取り調査ができるような状態ではありま

せんで、お母さん方はほとんど働いていませんから、普通の行事の無いときが適当かと思います。幼稚園の場合は3, 4, 5歳ですが、学年によっても保護者の方のご意見が違うと思うのですよね。ましてや保育所だと0歳から5歳までいますので、年齢の差で色々違ってくるというのは考えられると思いますね。

(水落委員)

今、岡本委員から年齢の差でということなので幼稚園、保育所の箇所数を多くするというのはどうでしょうか。あと、ファミリーサポートセンターというのは、保護者の方が行かれることはあまりないですよね。でもご意見は聞きたいと思うので、その辺はどうでしょうか。

(柏女会長)

ファミサポはどうやったら可能でしょうか。

(相馬委員)

ファミサポで何か集まり、イベントってありますよね。そういう時に行くというのはどうでしょうか。

(古宿委員)

そうですね。交流会が年に2回あるのですけど。

(柏女会長)

それは依頼会員の方も集まるのですか？

(古宿委員)

はい。利用者と提供者と子どもさんと。

(柏女会長)

組織的にそういうものに準ずるものをご企画いただいて、ご協力いただけませんかというような感じでやれるといいですかね。

(古宿委員)

そうですね。できないことはないと思います。

(藪本委員)

先ほどお話がありましたように、幼稚園や保育所を何か所か増やしたとしても、母数はそんなにとれないですね。今回アンケートで未就学児について集まっていることを考えると、保育所と幼稚園に行かれている方の意見は上がっていると考えてもいいのではないかと考えています。なので、数少ない20施設×5人だと100人にしか聞けないので、100人をどこに振り分けるかとなると、統計的に吸い上がらないような所に充てるべきじゃないかと思っています。発達支援センターに行かれている方というのは総数からいっても調査票が送られている確率は低いわけですから、そういったところに重点的に貼り付ける方がこのヒアリングの趣旨に合うのではないかと考えています。

(柏女会長)

貴重なご意見を頂戴しました。

そう考えると、言葉は悪いかもしれませんが小集団の方々が集えるような場所に行ってニーズをしっかりと汲み取って計画に生かしていく、調査票からは出てこないのということですね。

(藪本委員)

ご異論はあるかもしれないですけど、幼稚園と保育所、学童とかに関しては、そこではなくてファミサポや児童発達支援というところの方に振り分けてもいいのではないかと考えています。広めというよりは、そこはアンケート調査であがってきているのではないかと考えています。

(柏女会長)

ワークショップの時も障害を持った子たちというのはいなかったですね。0, 1, 2歳の子育て中の方はお見えでしたけれど、それ以外のマイノリティの方はいなかったの、その方々を中心にインタビューをしたらということですね。

(櫻庭委員)

保健センターの健診もいいと思うのですが、発達に気になるところがあるお子さんの保護者の方も、そういうところで協力していただくのもいいかと思っています。

(田中副会長)

あとは多胎児の保護者の方ですね。

(柏女会長)

それは大事ですね。

そうしますと今出ているのは、児童発達支援センターは入れるとして、あと保健センターで発達が気になるお子さんの保護者の方ですね。

(田中副会長)

それから母子家庭とか、ひとり親家庭ですね。

(柏女会長)

ひとり親家庭の方にご意見を聞くことは可能ですか。

(事務局)

ひとり親家庭の団体があるので、連絡してお集まりいただける機会は持てるかと思います。

(柏女会長)

ひとり親家庭の団体のご協力をいただければ、ひとり親家庭の方の意見もお聞きできるということですね。

(委員)

父子家庭も入っているのでしょうか。

(事務局)

数は少ないですけど入っています。

(櫻庭委員)

保育園もひとり親家庭が多いので、もし人数が十分にとれないのであれば、各園から声をかけるということは可能だと思います。

(柏女会長)

保育所や幼稚園はもちろん何か所かは行うにしても、そこを減らして対象を広げていくということは、アシストさんとの関係でも大丈夫ですか。

(事務局)

20施設の枠の中で考えていただければ問題ないと思います。

(柏女会長)

種類を多くして箇所数を少なくするというやり方で、こういうやり方で対象が増えても総計が20であれば大丈夫ですね。

(事務局)

施設として20というのと、時間について業者の経験からするとやはり1時間、質問の数が4問前後となると、40分ぐらいだと思うのですが、今日の会議の結果を踏まえて調整は必要かと思います。

(柏女会長)

この間のワークショップでも最初に自己紹介とかやったりして、40分というか1時間ぐらいになるのではないですかね。

(事務局)

それから各施設で色々な行事などの場でそういった時間を取ってもらえるかどうかということもあるかと思います。5人ということがありますので、5人のところを10人となると難しいところもあるかと思います。

(藪本委員)

幼稚園・保育所が4か所ずつになっているのを3か所ずつにして、もう2か所、たとえば多胎児やひとり親家庭を増やすのは問題ないかということだと思いのですけれど。

(事務局)

それは問題ないです。

(岡本委員)

そういうことであれば、幼稚園は2か所ぐらいでも構いません。

(田中委員)

保育園とか学童あたりだと、帰るところをお時間いただいて5人ぐらいというのは難しいかもしれないですね。

(仲宗根委員)

保育園の中でも育休中のお母さんは時間があるので、保育園に行くのであれば育休中のお母さんをターゲットにしていけば5, 6人ぐらいはいらっしゃるような気がします。年齢層は偏るかもしれませんが。

(相馬委員)

施設によって聞き方を変えることはできないですか。グループでできるところはグループヒアリングをして、保育園など集まるのが難しいところは出口調査みたいなことをやるというのが可能であればそういうこともやっていただければと思います。

(事務局)

5人であれば1時間程度時間がほしいということで、例えば人数を2人程度に減らせば同じ内容を20分ぐらいで聞いて、それを3回繰り返すような形で対応することは可能です。施設によって長時間拘束されてしまうと実施が困難であればそういったやり方を検討することもできると思います。

(櫻庭委員)

先日ワークショップに参加させていただいて、やはり5人ぐらいいると他の方が言われたことを聞いて思いついて発言ということもあるので、人数を減らすと意見が偏ってしまうかなと思います。

(柏女会長)

やり方に工夫が必要なのは学童と保育所でしょうか。例えば土曜日に1時間ぐらいご協力をいただけないでしょうかとお願いをして行うとか、良いやり方はないのでしょうか。

(〇〇委員)

もれなく保育のご協力もお願いしないといけないですね。

(小川委員)

学童はこの時期に入所の説明会があって、在所の方にも説明会がありますので時間を取ろうと思えば取れると思います。

全然話が違うのですが、学童に入っていない小学生の保護者の意見というのは、この中だとどこに入ってくるのでしょうか。児童館だと多分子どもたちだけが行っているような形で保護者の意見を聞けないのではないかなと思うのですが、その辺の意見も吸い上げていただければと思います。

(事務局)

児童館につきましては、親子で集まる行事等もございますのでそういった中

で聞き取りできるかと考えています。

(小川委員)

小学生は、親も行くでしょうか。

(田中副会長)

小学生はいかないですよ。

(事務局)

就学前になってしまいますね。

(田中副会長)

小学生はアンケートを取ったので、ヒアリングはなしにするかということなのかと思うのですが、どうですかね。

例えばうちみたいところで、小学生の親を集めて聞きたいということであれば、そういう会を開けないことはないです。ただ普段は集まっていないので、集まろうと思わないと。

(柏女会長)

工夫すれば可能ですか。

(田中副会長)

そうですね。個人的に声をかけるとか、そういう感じですね。

(鈴木委員)

学校だと保護者会があった時にお願いするとか、PTA役員さんをお願いするというのは学校経由でお願いすれば、そういったところも広げていくということであればできるかと思います。

(〇〇委員)

必要かどうかですよ。

(柏女会長)

では学校は置いておいて、決めていきませんか。資料5の例1を見ていただいて、児童発達支援センターはよろしいですね。

(委員)

はい。

(柏女会長)

続いて、子育て支援センターについては保育所併設型とNPO型で考えているのでしょうか。

(事務局)

保育所併設型です。

(柏女会長)

保育所併設型のことを考えているとすると、一番下のNPOというのは子育て広場のことですか。

(事務局)

NPOに関しては、子育て支援のNPOをイメージしています。

(柏女会長)

それでは子育て支援センターは全部保育所併設型でよろしいですか。

(事務局)

流山市内の子育て支援センターは、公立1か所は別ですが、その他の私立は全て保育所併設型になります。

(田中副会長)

あと、さきほど出てきた多胎児とかどうですかね。

(柏女会長)

それはやりましょう。子育て支援センターは入れるということでもよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(柏女会長)

児童館・児童センターはどうでしょうか。

(仲宗根委員)

今これは入れるか、入れないかですか。

(柏女会長)

はい。

(委員)

入れる。

(柏女会長)

ではファミリーサポートセンター。

(委員)

入れる。

(柏女会長)

保健センターは先ほどの発達に気になるところがあるお子さんの保護者の方は別出しにしてもいいかと思うのですが、保健センターそのもので乳児健診に来られた方ということでしょうか。

(田中副会長)

あとハローベビーとか妊婦さんはどうですか。

(柏女会長)

妊婦さんへのインタビューはどうされますか。

対象に入れるかどうかで、他の自治体では妊婦さんを入れているところもあります。

(藪本委員)

入れられるのであれば入れるべきだと思います。いずれ子育てにつながる前段の話なので。

(柏女会長)

そうですね。妊娠中の方にどういう妊娠中の支援があったらいいとか、あるいは出産してからこんなサービスがほしいとか。

(藪本委員)

おそらくこれは今のアンケート調査の中では吸い上げられていない可能性も、第1子がいて妊娠中の方は対象になるのですが、初めてのお子さんの時は入っていないと思うので入れるべきだと思います。

(柏女会長)

そうすると、保健センターでは乳児健診と、妊婦、あと発達に気になるところがあるお子さんの保護者の方を入れるとすると保健センターが3つということになりますよね。それはよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(柏女会長)

では公民館。これはよく分っていないのですが、どういうことでしょうか。

(事務局)

講座や行事をやっているところにとということです。

(柏女会長)

これは子育て支援センターに集まっている方と利用層はそんなに変わらないですよ。どうしますか。子育て支援センターを減らして、公民館を入れてもいいかもしれませんが、公民館の利用の仕方についても使い勝手が悪いとか意見が出てくるかもしれませんので、公民館も入れておきますか。

(委員)

はい。

(柏女会長)

補足的に聞くためにも幼稚園、保育所、学童は入れますね。

(委員)

はい。

(柏女会長)

NPOこれはどうしますか。

(吉川委員)

NPOが主催している幼児サークルとかをイメージされておっしゃっているかと思うのですが、ある程度集まることは確定しているのでそこで意見を吸い上げるということですかね。

(柏女会長)

そうすると、就学前の0～3歳ぐらいが中心になりますかね。

(藪本委員)

NPOに関しては事業体じゃないですか。聞こうとしているのは、市の事業としての話をしようとしていて、NPOの体制を聞きたいのであれば入れてもいいと思うのですが、NPO団体自体についての話を聞くことになりますよね。

(吉川委員)

NPOであるということは別として、参加されているお母さんたちに市のことを聞くという調査場所の一つとして考えられていると思うのですよ。

(藪本委員)

そうすると、聞き方がどう聞くのだろうという。

(吉川委員)

そうですね。施設についての質問に重点を置かれるのであれば、NPOは外した方がいいと思います。

(藪本委員)

私も同じ意見です。

(柏女会長)

今のことでいえば、0～3歳ぐらいの方々の意見を聞こうと思えば、子育て支援センターを拡大して0～2歳ぐらいまでの広場とかいうふうに規定してしまえばいいですね。そこでセンターを2ぐらい入れて、NPOを入れたりとかしていけばいいということですね。

(小川委員)

ここに集まってくる人たちに調査をするという形だと思うのですが、実際に子育て関係をやっていると集まってくるお母さんたちはまだいいですね。集まってこないお母さん、保育所にも幼稚園にも入っていない、それでいて流山がどんなことやっているかも分っていないお母さんたちっていると思うのです。そういう人たちの意見も、一番苦勞している、子育てに対して問題意識を持っているお母さんっているかなと思った時に、こっちから出向いて行って街頭でアンケートを取るというのも必要じゃないかという気がしています。

(柏女会長)

おっしゃるとおり大事なことは間違いないですけど、難しい点はあるかもしれないですね。

そこも念頭に置きながら20にしていきたいと思います。

(仲宗根委員)

すみません。マイノリティのところでもう一つ可能であれば追加してもらいたいのが外国人の親の方なのですが、アンケートが送られてきても日本語の理解が難しければでていない可能性もあるので、どう集めるかは検討したほうが良いと思いますが、入れられるのであれば入れたほうが良いかと思っています。

(柏女会長)

ありがとうございます。外国人の方は対応できますか。

(吉川委員)

中央公民館で日本語講座をやっています。そこに来ているお母さんたちがいるので、説明して質問していただくのは可能だと思います。

(柏女会長)

わかりました。ありがとうございます。それでは、児童発達支援センターは1つ、これは就学前ですよね。就学後の放課後デイは必要ないでしょうか。

(事務局)

市内では社会福祉法人がやっている施設と、学童保育所でお預かりしていますので、対象とすることは可能です。

(小川委員)

障がいのあるお子さんを学校が終わったら特別にその施設で預かるということですか。

(事務局)

そうです。学童とは違って毎日ではなく週に何回かという形です。受けていただけるかは分かりませんが、そういう施設はあります。

(柏女会長)

そうすると、児童発達支援センターと放課後デイで2つ、子育て支援センターを例えばですがNPOを含めて3つとするとこれで5つ、児童館を1つ入れておいたとして6つ、ファミサポで7つ、保健センターが乳幼児と妊婦で2つ、これでいくつですか。

(委員)

9つです。

(柏女会長)

それから、公民館の行事は子育て支援センターの中に入れてしまえばなしでいいですね。幼稚園が2つで11、保育所がまず2つにして13、学童が1つで14、次が保健センターの発達に気になるところがあるお子さんの親で15、多胎児で16、ひとり親で17、外国人の親で18、これで18ですね。あと2つ。里親さんはいますか。里親さんに地域の中でどういうサポートがあったらいいとか、虐待への対応とかそういうことも聞けるので里親さんを1つ入れましょうか。これで19。

(田中副会長)

父親のという藪本委員の意見はいかがでしょうか。

(藪本委員)

どこで吸い上げるのかっていうのがなかなか厳しいですね。

(柏女会長)

そうですね。何かありませんか。

(櫻庭委員)

子育て支援センターでパパの集まる行事もあって、ただ1月、2月にできる

かは分りませんが、熱心に来て下さるのでそういうことをテーマに集まるという。

(柏女会長)

それでは子育て支援センターを4つにしておいて、4つの内訳は1つがNPO、もう1つが父親の声を吸い上げる、あとの2つを子育て支援センターということでどうでしょう。

(事務局)

業者との話の中で1月10日ぐらいまでに全て確定させていかななくてはならないので、それまでに各施設に協力をお願いをしていくようなイメージになります。

それと地域性の問題を考慮せずに幼稚園・保育所等は選んでしまってよろしいでしょうか。

(田中副会長)

いや、その中で考慮するのはどうですか。例えば子育て支援施設が少ない地域では児童館を入れるとか、その辺を少し考慮してはどうでしょう。

(柏女会長)

ヒアリングは多少恣意的になっても仕方がないので、公平性に重点を置くよりは少人数の方の声を拾い上げることと、個別の想いを具体的に拾い上げること、公平性よりは詳しく聞いていくということにしませんかね。

今の20か所です。お願いできますか。

(事務局)

これから各施設の方に打診をしていきますが、どうしても難しい施設が出てきた場合、会長・副会長に相談をしていただいたうえで判断していただくということでよろしいでしょうか。

(柏女会長)

それでは今あがった20か所を前提にここで決めさせていただいて、実施が難しいということがあった場合、代替の施設をどこにするかについては私と田中副会長に御一任いただくということでよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(柏女会長)

ではそういうことで、私たちもできる限り考えながらやっていきたいと思えますのでよろしくお願いします。この関係では決めることは以上でしょうか。

(事務局)

一点、ご相談させていただきたいのですが、先ほど質問を先に決めた中で、施設について具体的に聞いていくことになったかと思うのですが、今あがっている20の中で例えば里親や外国人となると聞き方を変える必要があるかと思うのですが、事務局の方で変えたものを用意していいか、それともこの場で話し合っていた方がいいかどちらがよろしいでしょうか。

(柏女会長)

どうでしょうか。具体的な意見が分ればいいと思いますので、事務局の方で作成をしていただいて、もし疑問・不安な点があれば個別に相談していただくようなやり方でよろしいのではないかと思いますが良いでしょうか。

(委員)

はい。

(柏女会長)

ではそのようにさせていただきます。あと資料6のヒアリング調査票の裏表についてまだやっていないのですが、この依頼文はアンケートの調査票と同じものですよね。これは利用者の方の手元にいくわけですよね。

(事務局)

一枚目の表裏は趣旨を理解していただくためにヒアリングの前に読んでいただくイメージでいます。

(柏女会長)

調査ご協力のお願いのところの、統計的に処理し、とあるのですが、統計的な処理ではないと思うので、個人が特定されないように内容を集約し、とか、そういう形に変えたほうがいいかと思えます。

それから、結果については市の子ども・子育て会議に報告し議事録と合わせて市のホームページに公開しますということだと、例えば外国人の方でご協力

をいただいた方がいて、話をして、うちには小さい子がいて、となると、それで個人が特定されるようなこともあるわけですよ。なかなか難しいかなと、児童発達支援センターとかもそうですよね。そこでどうしたらいいかと、結果について対象施設名称やご協力いただいた方の個人が特定されないように配慮し、というようなことを入れていただいでやりませんか。

(田中副会長)

上の文言に個人を特定したり目的以外のことに使用されることはありませんと一応ありますね。

(柏女会長)

これも統計的に処理し、と入っていて、少し整理することが必要かと思いません。

(小川委員)

市の方でホームページに出さなければならないと思うのですが、書き方だと思うのです。どの施設でこういう話し合いが行われたというような書き方ではなく、全体的にまとめた書き方をしていただければ特定されないかと思えます。

(柏女会長)

そうですね。施設ごとのものは出さないで全体をまとめたもの、整理したものを出すという形にしましょうか。

(委員)

はい。

(柏女会長)

そのほうがいいですね。ありがとうございます。議題についてはこれでいいかと思えます。

続いて事務局の方で流山市子ども・子育て支援事業計画というのはどんな姿になるのだろうかということを、イメージとして案を出していただいでおりますので説明をしていただいでよろしいでしょうか。

(事務局)

《事務局案の提出》

・流山市子ども・子育て支援事業計画（骨子案）

（柏女会長）

ありがとうございました。この会議が策定する成果物である子ども・子育て支援事業計画のイメージを、最終的なところを念頭に置きながら議論を進めていく必要があるというところで、事務局の方で案というよりはこういうイメージとして考えられますよということで出していただいたものです。何かこの時点でご質問はございますか。

よろしいでしょうか。今我々が行っているものは、第2章にある流山市の現況のニーズ調査になります。ここを受けて、もしかしたら次回ぐらいには基本理念を議論するという形になるかなと思います。その中では次世代の後期計画の第4章に流山市として作ってきた理念があるので、これを引き継ぐものは引き継ぐ、新しく導入すべき考え方があれば入れていくという形になるかと思えます。そのうえで施策の体系を考えていくということになるかと思えます。後期計画の第5章これが施策の展開で、ほぼ全てのジャンルを網羅してありますけれども、子ども・子育て支援事業計画ではジャンルとしては狭く、記載事項としては細かくということになると思いますが、第5章の施策の展開全体を網羅しなくてはダメだと思えば、子ども・子育て支援事業計画の中に入れて込んでいってもかまわないですね。そのような議論を今後していけばいいかと思えます。

それでは、今日の議題は終了となりますけれども他にご意見はございますか。今後に向けてのことでも結構ですし、これまでのことでも結構です。何かございますか。

（相馬委員）

前回、タウンミーティングをやった時にもまたやって欲しいという声があったのですが、もしやるとしたらいつ頃とか、そういうのはあるのでしょうか。

（柏女会長）

そうですね。何か事務局の方でお考えはありますでしょうか。

（事務局）

来年度、ある程度計画の骨子ができた時点でもう1回開ければと考えています。ワークショップという形よりは、従来型のタウンミーティング、意見交換のような形のものも検討していきたいと思いますが、来年の早い時期、5月6

月ぐらいのイメージかとは思いますが。

それから、計画につきましては来年度いっぱいを考えております。その前段ではパブリックコメントを実施したいと考えています。パブリックコメントの前段でタウンミーティングの実施を考えています。夏までにはやりたいと思います。

(柏女会長)

よろしいでしょうか。市民の方の意見をうかがう機会としては大きくタウンミーティングとパブリックコメントがあるということですね。

では他には何かありますか。

それでは第3回流山市子ども・子育て会議を終わりにしたいと思います。次回会議にも是非ご出席のほどお願いします。本日はどうもありがとうございました。